

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「文学部研究業績評価基準」並びに「同細則」の定期的な見直しを実施する。	→「文学部研究業績評価基準」並びに「同細則」	A
2. 現在、ネイティブの教員がいない外国文学語学の専修において、ネイティブの教員を任用する。	→文学言語学科の各専修(英米文学英語学専修・フランス文学フランス語学・ドイツ文学ドイツ語学)におけるネイティブの教員数	A
3. 現状のままでは2013年度に61歳以上の教員比率は32%になるが、この比率を上回らないように人事施策を進める。	→専任教員の年齢構成比率	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.1	(方針) 明文化された教員像および教員組織の編成方針はない。 (現状説明) 欠員が生じた場合、人事委員会でどのような教員を採用するか、専修の意向、担当科目、専修・学科の教員構成、研究領域、年齢構成や経験、さらにその分野の研究動向を勘案しながら、検討している。人事委員会のもとに構成される採用人事審査部会では、当該専修・学科以外から部会長を選出し、さらに審査部会委員も当該専修以外の専修の教員を必ず配置し、透明性のある選考を行っている。各専修では定期的に会議を持ち、教育、研究にかかわる事項を協議している。
☆	小項目 11.0.2	問題はない。授業担当についても、カリキュラム委員会、教授会で必ず審議対象となっている。
☆	小項目 11.0.3	本学の「教員選考基準」「大学院教員及び大学院指導教員選考基準」のもとで、学部は「文学部人事手続き」「文学部教員選考基準内規」に従い、研究科は「文学研究科大学院教員及び大学院指導教員選考基準」「研究科の人事手続き」に従い、適切に募集、採用、昇任が行われている。教員の年齢比率の改善についても人事委員会の議論の中で十分考慮されている。
☆	小項目 11.0.4	FD研修会を定期的で開催している。
☆	その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

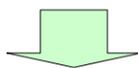
【文学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)		人	45.0	45.3	44.5	47.9	48.0	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%	61.7	60.9	58.8	56.1	55.9	
		教養教育	%	22.0	21.3	17.9	23.6	25.5	
指標3	専任教員の年齢別構成 (分布)		→	→	→	→	→	→	大学基礎データ表21参照
指標4	教員組織における女性教員の比率		%	16.4	15.3	14.7	18.3	19.4	
指標5	本学出身の専任教員の構成比率		%	42.5	41.7	40.0	42.3	42.3	

注) 指標5は学部、研究科、研究所、センターを対象とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	ネイティブ教員の採用
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



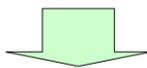
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	人事のことであり、年次毎に採用があるわけではないので、上記事項については次年度の方策はない。
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.1	教員の年齢別構成の偏り
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.1	今期の目標にもあるが、特定の年齢層に片寄らないような採用を心掛ける。ただし、文学部全体としての構成比率と学科、専修ごとの構成比率は一致しないので、その点も勘案しなければならない。
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○A評価の進捗内容を簡単に記述してください。例えば、「文学部研究業績評価基準」並びに「同細則」は、教員の募集・採用・昇格に際して用いられないのでしょうか。

【学内委員】

○教員の年齢構成は50歳以上が約60%であり、他学部に比べて年齢構成の歪がやや気になるようです。改善されることが望まれます。しかし、短期的に実現できることではないので、早急に将来を視野に入れた方策が講じられることが期待されます。

○教員の年齢構成については、多くの学部の悩むところであると思います。今後の採用等における勘案が期待されます。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」（ハンドブックP78～）において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「8. 教員組織 ③専任教員の年齢構成のバランスが取れている」については「学部として、61歳以上が35%を超える場合は助言、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上でみたとき、各年代の全体に占める割合が30%を超える場合は助言になることもある」とされています。本水準を満たすことは大変難しいことですが、本水準を念頭におき今後の教員人事をお考えください。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」（ハンドブックP78～）において、水準評価として数値による評価がなされるものに注意してください。「8. 教員組織 ②教養教育担当教員を含め、各学部における専任教員1人当たりの学生数が、・・・」については、「卒業論文を必修として課している学部においては40名以内」としており、水準を超えています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

（小項目ごとの現状説明）11.0.3に文言（下線部）を追加し、次のとおりとする。

★ 本学の「教員選考基準」「大学院教員及び大学院指導教員選考基準」のもとで、学部は「文学部人事手続き」「文学部教員選考基準内規」「文学部研究業績評価基準細則」に従い、研究科は「文学研究科大学院教員及び大学院指導教員選考基準」「研究科の人事手続き」に従い、適切に募集、採用、昇任が行われている。教員の年齢比率の改善についても人事委員会の議論の中で十分考慮されている。なお、「文学部研究業績評価基準細則」については、2009年に見直しのためのワーキンググループを人事委員会のもとに設置し、見直しを行った結果、現行の基準について変更の必要なしとの報告があり、人事委員会、教授会では審議の上、これを了承した。ただし、昇任人事の審査に際して、より厳正で公正な審査のために、主要業績並びに前回の人事審査以降の業績について、約1ヶ月間文学部の全教員を対象に開示することとなり、2010年4月1日以降の昇任人事についてこれを実施している。

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合（専門職大学院に限定）
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員（契約教員）の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

＜個別的な指標＞
